



申11号「電気部門の変革2022」に関する解明申し入れ(第2回交渉) その1

第9項 新幹線部門と在来部門との異動の有無を明確にすること。

A(会社)・任用の基準に則り取り扱う。それぞれの適正と今後の施策実施での最適な人員配置をおこなう。

Q(組合)・これまでは担務変更だったものが異動になるのか。

A・これからは別の機関になるので担務変更ではなく異動になる。

Q・設備21では新幹線と在来線を一緒の職場でやるべきだとしてきた。在来は今後新幹線業務を覚える機会が減るのか。

A・在来は在来、新幹線は新幹線を基本とする。「変革2022」の中で仕組みを設けるなど本人がチャレンジする幅は従来以上に広がる。

Q・新幹線の大規模輸送障害時に在来線担当が行くことにならないのか。

A・職責を超えて一致協力していく。新幹線の専門が行くのが大原則ではあるが、後方支援など出来ることをやってもらいたい。

Q・今後、在来・新幹線に分かれるが面談など本人希望を聞く場はあるのか。

A・面談を否定しない。色々な形でコミュニケーションを取り、従来のコミュニケーションの型にはまってることはない。

第10項 新設される電気部門の新組織と、各技術センターの役割と担当する業務の区分を明確にすること。

Q・今後は本社、支社、新幹線の新組織の3つが横並びになるのか。

A・支社と本社という概念と別の組織である。新たな組織として電気の職場と企画部門をダイレクトに結ぶ。仕事の内容は基本的には3つの機能を合算した中身。

Q・工事契約について、支社単位で契約していたものが、技セ単位で行うのか。

A・今後、詰めていきたい。

Q・予算などは完全に分けるのか。また、修繕費等はどうなるのか。

A・新幹線と在来線で分けているので基本的にはそれぞれの管轄でおこなう。

Q・技セが3つになるがどう変わるのか。

A・技セを大宮、高崎、仙台に設置する。拠点メセとして盛岡、新潟、長野に置く。やることは必要により切り分けたい。

第11項 既に設置されている新幹線に特化した技術センター等の変更内容を明確にすること。

Q・現在、東京と大宮に新幹線専門の組織がある理由と、今後変更する理由は何か。

A・信号・通信など分けて東京に専門性の高い組織を置いてきた。今後は新幹線の専門組織を設置して、技セの再配置をゼロベースで考えた。東京と大宮は他の技セより新幹線だけを考えて高めてきた。新しい首都圏の新組織で高めていただきたい。首都圏の電気部門は大宮に集中させたい。

Q・技セがあったところには各支社の定めたものや、労使で確認した事項もある。それは残していくのか。

A・支社で工夫してきたものは新しい組織になっても活かせるものは活かしていただきたい。全部は出来ないが検討していきたい。